

**【規格名 (和名)】**

IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」およびその運用指針

**【規格名 (英名)】**

IHE: PDI (Portable Data for Images) Integration Profile, and Its Application Guideline

**【規格の目的】**

DICOM ファイル形式である画像を、CD など可搬型媒体で受け渡すためのディレクトリ構造などを定めたものである。個々の DICOM 画像ファイルや、それらの内容を示すディレクトリ DICOMDIR の、媒体内での置くべきフォルダなどのガイドラインが示されている。運用指針はさらに運用における適切な取り扱い方を補足している。

The guideline defines where and how to store them in portable media, by which the data exchange is made. The contents comprise where in the media and in what directory the DICOM images and their directory DICOMDIR are to be located; also application guideline shows appropriate application of it.

**【規格の適応領域】**

適応領域は、医療施設間で画像情報を可搬型媒体で交換する際に用いるものである。

**【関連他標準との関係】**

医用画像そのものはすでに HELICS 推奨規格 HS011 となっている DICOM によるが、IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」(IHE Radiology TF) 運用において、それらのファイルが媒体内でどのディレクトリに置かれるべきか、などの使用方法と運用指針を定めている。

日本 HL7 協会からの関連規格との関係: すでに HELICS 推奨となっている「(HS007) 患者診療情報提供書及び電

子診療データ提供書 第一版」、および「(HS008) 診療情報提供書 V1.0 (医療機関への紹介状)」は、DICOM 画像を DICOMDIR を格納し、other files の部分に HL7 形式の検査結果、処方内容、HL7 CDA 形式の患者への文書 (前者の場合)、紹介状 (後者の場合) が格納されており、従ってこの二つは本規格に準拠している。診療情報提供書、あるいは患者への文書とともに、必要であれば検査結果、処方内容なども媒体に格納する場合は、先述の 2 規格を利用すべきであり、画像のみの本規格媒体と紹介状などの別媒体とに分けることは、患者取り違えの問題もあり、推奨されない。

DICOM 画像のみを媒体に格納する場合は、本規格が該当するが、病院での病診連携部などでの受け入れを考えると、同じ理由で、患者 ID 情報などの必要最小限情報が CDA 文書となっている HS007 を利用すること、つまり必要最小限の患者 ID 情報文書を PDI 媒体に格納することが将来的には望ましい。

以下にユースケースごとに使うべき規格をまとめる。

- 診療情報提供書と、それに付随する画像の場合: 「(HS008) 診療情報提供書 V1.0 (医療機関への紹介状)」
- 患者の求めに応じて提供する CD で、画像を含む場合: 「(HS007) 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書 第一版」
- 画像のみの場合: 本規格但し将来的には患者漢字氏名や他施設での患者 ID などの情報も含むことが出来る「(HS007) HL7J-CDA-004 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書 第一版」の利用が望ましい。

**【規格の入手方法】**

日本 IHE 協会のホームページ

<http://www.ihe-j.org/material/index.html>

から、1) IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」IHE:PDI (Portable Data for Imaging) Integration Profile、および

2) Portable Data for Imaging (PDI) に関する技術文書（日本語版）を入手できる。1) は、IHE が定める放射線部門 (Radiology) のテクニカルフレームワークの内、媒体による画像を含む診療情報を交換するための統合プロファイルについて、“IHE Technical Framework, Vol. I Integration Profiles の 1, 2, 15 章および Vol. III Transactions (Continued) Rev.8.0”から 4 章の PDI に関する部分を抜粋しまとめたものである。IHE テクニカルフレームワークの全体像が分かるように、Introduction や Profiles などの記述についてはそのまま残している。また、出典元であるテクニカルフレームワークの記述部分分かるように章、節などの番号はそのままの形で利用している。必要に応じて、原規格 Radiology Domain IHE Technical Framework は、参照先 [http://www.ihe.net/Technical\\_Framework/index.cfm#radiology](http://www.ihe.net/Technical_Framework/index.cfm#radiology) から入手可能である。

また、IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」の運用指針第 1 版は、日本医療情報学会のホームページ <http://www.jami.jp/document/index.html> から入手可能である。

#### 【メンテナンス状況】

原規格のうち DICOM で規定される部分のメンテナンスは米国 DICOM、IHE で規定される部分は IHE International による。IHE にかかわる記述および運用指針に関しては、日本 IHE 協会と日本医療情報学会が共同で行なう。

#### 【現在の改版状況】

PDI を含む Radiology Technical Framework は、Revision 10.0 (February 18, 2011 発行) が、2011 年 6 月現在の最新バージョンである。

知的所有権については、元となる IHE

Integration Profile は IHE International (<http://www.ihe.net/>) が所有している。運用指針第 1 版は日本医療情報学会が所有する。

#### 【その他】

日本医療情報学会からの患者に渡す医用画像 CD について、以下の申し合わせをしている。

日本医療情報学会では、関連学会、団体（日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、日本画像医療システム工業会、保健福祉医療情報システム工業会、日本 IHE 協会）に向けて、医用画像情報を含んだ CD を患者に渡す場合、受け取り手の側の状況を配慮し、臨床現場での混乱を未然に防ぐため、以下の申し合わせをしている。

対象:患者の手を経て、他医療施設等に医用画像情報の入った CD を渡す場合。但し、特定の医療施設等に向けて、受け取り手が内容について了解している場合には、対象としない。

以下の事項を満たすものが望ましい。

1. オートスタートを避ける
2. DICOM 違反のタグを含まない
3. 1CD に 1 患者 ID とする、また、1CD に数スタディ程度とする
4. IHE PDI 準拠とする
5. 受け取り側の状況を配慮し、大量の画像枚数となることを避ける
6. SS-MIX などで示されている、あるいは IHE PDI で示されているファイル (DICOMDIR, DICOM 画像、HL7 ファイルなど) 以外のファイル (PDF、単体の JPEG、テキスト、表計算など) は、別ディスクとするか、同一 CD に入れる場合は PDI の示すとおり、Other files/folders に入れ、そのことをディスク面あるいは README.TXT に明記すること。